

令和3年度 ICT を活用した総合的な鳥獣被害対策モデル集落推進事業 取組地区報告

<取組集落>

- ①神杉 21 区 ②農事組合法人三若 ③戸河内下農業生産組合
- ④農事組合法人うが

【神杉 21 区】

- ・自動撮影カメラによる画像により、対象鳥獣の情報（出没時間、獣種、頭数、大きさ、誘因状況など）がリアルタイムに分かり、取組の様子を皆で共有できたことは、捕獲活動をする上で有意義である。来年度以降もこの取組を継続していく。
- ・初めて捕獲活動に取り組んでみて、イノシシやシカの習性や動き、箱わなの仕掛け方、餌付け方法などを学ぶことができ、大変勉強になった。
- ・なかなか思い通りに捕獲ができず、当初想像していたよりも捕獲は簡単ではなく、捕獲の難しさも理解できた。研修で学んだことを実践しながら、捕獲技術の向上に努めていきたい。今後も鳥獣対策関係の研修があれば、積極的に参加していく。
- ・なかなか捕獲できない場合は、早めに箱わなの場所移動をすることも必要であると感じた。
- ・ワイヤーメッシュ柵による侵入防止対策も進めており、農作物の被害は減少している。
- ・（今後取り組まれる他地域の皆様へのアドバイスとして）集落研修会や現地指導等で学んだことを参考にして取組を進めていただきたい。

【法人三若】

- ・昨年度の取組集落から話を聞き、この事業に応募した。当初想像していたよりも捕獲は簡単ではなかったが、この取組は継続してこそ意義があると思う。根気よく続けていきたい。
- ・近年、イノシシに田の畦畔を掘り返される被害が多発しており、防護柵等による侵入防止対策だけでは被害は防げない。作物の被害よりも復旧に要する労力に頭を悩ませている。侵入防止対策とあわせて捕獲により個体数を減らしていく取組が必要である。
- ・捕獲活動は、猟師だけでなく地域と一緒にやっていくことが必要で

ある。

- ・この事業で新たに3人が狩猟免許（わな猟）を取得した。来年は狩猟者登録をして、地元の駆除班員にアドバイスをいただきながら、しっかりと捕獲活動に取り組んでいきたい。
- ・毎日の餌付け活動は、正直しんどいものである。なるべく通いやすい場所に箱わなを設置した方がよい。
- ・研修で捕獲活動の正しい知識を学んでその場では理解しても、時間が経過すると誤った固定観念に戻ってしまう。定期的なフォローアップとともに、視点を変えた研修を行うなどの工夫をしてみてもらいたい。
- ・行政には地域のハンターを養成していく施策を講じたり、捕獲報奨金を上げたりするなど、有害鳥獣の個体数を減らす取組を進めていただきたい。
- ・この事業は有意義であると思う。どこの地域も鳥獣被害には苦慮しており、他地域にもこういった取組を広げていただきたい。

【戸河内下】

- ・研修会や現地指導では、イノシシの生態や行動特性などを知ることができ、防御方法や捕獲技術の面で勉強になった。
- ・これまでも集落での捕獲活動は行っていたが、この取組を機に管理する人間を増やし、餌付けなどの日々の管理をしっかりとするようになった。いかに日常の管理が大切か今回の取組を通じて分かった。
- ・研修会や現地指導は有意義な内容であり、隣の集落である戸河内上地区にも声掛けをして一緒に勉強してもらえればよかった。
- ・しばらく捕獲できないような場合は、同じ場所で続けるより早めに移設した方がよいと感じた。
- ・自動撮影カメラを活用した捕獲活動は継続するが、箱わなごとに管理者を決めているので、通信費用をかけてまで画像共有する必要性を感じないため、スマートフォンアプリでリアルタイムに画像共有する通信機能は今年で終了する予定である。扉が落ちたら連絡が入る仕組みの方がよい。
- ・（今後取り組まれる他地域の皆様へのアドバイスとして）餌付けなど箱わなの管理はこまめにして、できるだけ取り逃がさないようにしてほしい。特定の人だけでなく、できるだけ多くの人で取組を進めた方がよい。研修会等は鳥獣対策の正しい知識を得る貴重な機会なので、講師の先生の講義を多くの人で共有してもらいたい。

【法人うが】

- ・自動撮影カメラの画像を確認できることで、餌付け活動の励みになった。画像を皆で共有しながら盛り上がった。来年度以降もこの取組を継続していく。
- ・静止画ではなく、動画での活用も検討したい。動画であれば、イノシシがどのような動きをしているのか把握できる。
- ・餌は米ぬかを使用したけど、より誘引力のある餌はどんなものがあるのか。くず米をあぶって香ばしくするとよいと聞いたことがある。
- ・今回の取組を通じて、駆除班員との関係が構築できた。
- ・こういった取組は、行政として周辺地域に波及させていくことが必要。
- ・鳥獣害の集落対策は「お金」の問題より「人」の問題の方が大きい。高齢化が進む中で、しっかり動ける人がいる集落でないと取組を進めることは難しい。
- ・捕獲活動は一人に頼るのではなく、地域で取り組めるようにならないと限界がくる。
- ・鳥獣対策事業を進めていく上で何が必要なのか、意欲の向上につながるような取組を進めてほしい。
- ・箱わなの設置場所は、近くまで車両で入れるところにした方がよい。日々の管理が大変な場所では長続きしない。
- ・有識者による研修会や現地指導は大変有意義だった。来年度以降もそういった機会を設けてほしい。